

# 災害に強い病院作りを目指して・・・

南多摩病院 事務部 総務課

当院は、大規模災害や、世界的感染症流行時（パンデミック）に、多数の患者様を受入れることができる施設作りに取り組んでおります。その一部をご紹介します。

## ☆建物構造の免震化

当院の救急棟は「免震構造」となっており、震度7の地震が発生した際でも建物内では震度2～3の揺れを感じる程度となり、建物の損壊を最小限に留めることができます。

この建物に救急処置室（ER）、集中治療室、手術室、血管造影室を設置しておりますので、災害発生時でも平常時に近い診療を行うことができます。

## ☆自家発電機の設置拡張

東日本大震災による計画停電実施の経験より、停電時における医療機器や電子カルテ等を可能な限り稼働させるため、5台の発電機を設置することで非常時でも電源の確保が可能です。

これにより平常時とほぼ同様な検査や過去の医療情報の参照ができるようにしております。

## ☆井戸水の利用

当院では「井水ろ過供給装置」を設置しております。これにより、断水などが生じた際でも使用でき、また近隣の皆様への配水を行うことが可能です。

## ☆医療ガス供給設備の拡充

病室などに設置しております医療ガス（酸素など）供給設備を、1階キャリ-と8階会議室にも設置しております。災害やパンデミック発生時に、特に呼吸管理などが必要とされる患者様の受入を可能とするスペースとしています。

## 南多摩病院は災害拠点連携病院です！

昨今多くの自然災害が発生しておりますが、そのような事態における医療体制の充実化を図るために、各都道府県の指定を受けた機能を持つ病院があります。

- ◆災害拠点病院 → 主に重傷者の収容・治療を行う病院
- ◆災害拠点連携病院 → 主に中等症者や容態の安定した重傷者の治療等を行う病院

当院は、平成25年より「災害拠点連携病院」として東京都より指定を受けております。市内では、東京医科大学八王子医療センターと東海大学医学部附属八王子病院の2つの病院が災害拠点病院となりますが、それらの病院の収容超過による受入が困難となる状況を防ぐため、上記患者様の受入を行う事が災害拠点連携病院の役割となります。

当院では、より重症な患者様の受入にも対応できるよう、DMAT（災害派遣チーム）やAMAT（医療支援活動班）に参加し、大規模災害や傷病者が多数発生した現場で活動ができる専門的な訓練を受けるなど、不測の事態に備えております。尚、災害発生時には八王子市医師会と連携し、当院駐車場内に「医療救護所」を設置、医師会の先生がトリアージを行います。軽症の場合は「医療救護所」で医師会の先生による診察、中等症患者様は院内で診察を行います。重症患者様の場合は当院の病院救急車で「災害拠点病院」へ搬送することも可能にしております。

## ～編集後記～

2015年も残りわずか。月日が過ぎるのが早いと感じられた方も多いことと思います。新年を迎えるにあたり新たな目標を決めて挑戦してみたいと思います。今後も患者様に有用な情報発信ができるよう広報誌委員一同頑張ります。次号は2016年2月発行予定です。（T. O）



医療法人社団 永生会 eisei

南多摩病院広報誌

平成27年11月第8号

みなみじゅうせい  
南十字星

発行・編集 / 南多摩病院 広報誌作成委員会 042-663-0111 (代表)

〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1



秋も深まり、紅葉を見に山へお出かけになることを楽しみにしていらっしゃる方も多いと思います。日ごとに夜風の冷たさを感じることも増え、冬の足音がすぐそこまで来ているのがわかります。この季節になると、インフルエンザやノロウイルスなどが猛威を振るいます。年末年始を健康で迎えるためにも、手洗い・うがいをしっかり行い、人が多い場所へ出かける際はマスクを着用するなど、予防をしっかり行いましょう。



さて、南十字星も今回で第8号となりました。今号では、診療部長兼整形外科部長である泉山医師より整形外科の紹介と、今年度から南多摩病院へ入職された加藤医師・津田医師より、患者様へのご挨拶を掲載いたしました。

また、医療技術部からリハビリテーション科、事務部から総務課が情報発信をしております。どうぞ、最後まで御一読ください。



## 整形外科 Orthopedics

南多摩病院 診療部長 兼 整形外科部長 泉山 公

南多摩病院診療部長兼整形外科部長をしております泉山と申します。当院の救急車受入台数が450件/月程度と増加に伴い、整形外科の常勤医師の増員がなされ、4月より加藤医師、8月より津田医師を加えた3名の常勤医師で診療を行っています。

また、非常勤医師の協力を仰ぎ、月曜日から金曜日まで手術日を設定することができました。

手術的治療症例は、地域の人口構成の影響を受け、救急外来からの高齢者の外傷が75%以上を占めています。通常の外来診察は脊椎・脊髄疾患が最も多く、骨粗しょう症、変形性膝関節症、手の外傷などが中心です。

当院では外傷手術が9割以上を占めています。救急病院であるため患者構成が外傷中心になるのは当然ですが、整形外科の疾患割合から考えるとかなり隔たりがあるのが現状です。

当院は手外科医の割合が多いことから、現在、上肢の内視鏡的治療を肩関節、肘関節、手関節、手根管に対して行える体制を整えることができました。今後は上肢の外科中心に変性疾患の手術件数を増加していきたいと考えています。最後になりましたが、今後も地域医療機関との連携を強化し、患者様のための地域包括医療を目指してまいります。



診療部長 兼 整形外科部長 泉山 公

今年度から整形外科に就任した2人の医師から皆様へご挨拶です！！

患者様に寄り添った診療を！！



こんにちは、2015年4月から整形外科で勤務しております、加藤建です。2004年に日本医科大学を卒業いたしました。現在は東京女子医科大学整形外科の医局に所属しています。脊椎を主に診させていただきます。首の痛み・腰痛・手や足のしびれといった症状に対して、内服やリハビリテーション、ブロック注射といった保存的治療を行っています。どうしても症状が改善しない方には手術も行います。

加藤 建 医師 まずは気軽にご相談ください。今後とも、よろしくお願い致します。

安心できる医療を提供します！！

はじめまして、2015年8月から南多摩病院整形外科で勤務することになりました津田悦史（つだ よしふみ）と申します。

1973年5月20日生まれの42歳、出身は長崎県です。1999年に防衛医科大学を卒業し、自衛隊医官として16年間勤務しました。資格は医学博士、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ医を取得しています。整形外科では上肢専門で、最近は肩関節鏡手術に関心を持って取り組んでいます。地域住民の方が安心して診療を受けられるよう頑張りますので、宜しくお願い致します。



津田 悦史 医師

平成28年1月23日（土）

第14回南多摩病院公開講座を開催します

時間：14時～16時

場所：南多摩病院8階会議室

テーマ：① 五十肩の症状と原因、  
予防と治療について

整形外科専門医 医学博士 津田悦史

参加費無料  
先着100名様  
締切1/21

② 肩を張らずに聞ける  
「肩こり」のはなし  
リハビリテーション科 原島 明

お問い合わせは南多摩病院医療連携室まで

TEL 042-663-0111（代表）

皆様の参加を心よりお待ちしております！！



第12回南多摩病院公開講座



医療法人社団永生会  
安藤 高朗

（注意）第12回第13回はおかげさまで大好評・会場は満員でした。定員に達しますと締切日前に受付を終了する場合がございますので、申込はお早めをお願いいたします。

このコーナーでは、皆様のお役にたつ情報、また南多摩病院の取り組みをお知らせします。



本当に食事は足りていますか??

南多摩病院 医療技術部 リハビリテーション科



健康寿命を考え、日々の運動に積極的に取組まれる方も多くいらっしゃると思います。皆様、運動にはとても関心が高いですが、運動を行う上での食事が、実は足りていないなんてことも・・・。

特に、ご高齢の方は、「元々少しくらいしか食べないから」、「もう年齢が年齢だし、仕方がない」なんて考えていらっしゃる方も多いですが、実は、自宅で生活されている高齢者の7人に1人は、栄養障害になっているといわれています。

現在の食生活に問題がないか、自己チェックしてみましょう！！



チェックしてみましょう！！

- 半年前と比べて体重は減っている
- 歯が悪い、飲み込みにくさがある
- 1日3食、食べないことがある
- 1人で食事を取ることがある。
- 歩くのが以前より遅くなった
- お酒をよく飲む
- 物忘れが多くなった



栄養障害とは？

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ① 免疫力の低下（体調崩しやすい等） | ⑤ 肺活量の減少（息が切れやすい等） |
| ② 筋力の低下（疲れやすい等）    | ⑥ 抜け毛              |
| ③ 消化器機能の低下（下痢・便秘等） | ⑦ 精神機能障害（物忘れ・認知症等） |
| ④ 貧血（めまい・ふらつき等）    | など、様々な問題を引き起こします。  |



自分でできる栄養管理

- ✓チェック 0個：現在の食生活を維持しましょう！！
- ✓チェック 1～3個：見直せる項目があれば、取り組んでいきましょう。
- ✓チェック 4～7個：食事・栄養が足りていないかもしれません。生活習慣食事に注意してください。

まずは、体重の増減がないか、定期的な体重測定から始めてみませんか？

加齢や筋力の低下により、飲み込む（嚥下）機能が低下してくることもあります。良く食べ・良く喋り、口や喉の筋肉を普段から使っていきましょう。

